

戦後70年と9・18集会

靖国神社問題とは何かーその本質を問う

1969年靖国神社法案の国会上程の動きが活発になった時に、父をルソン島で失った（戦死）一人の女子学生が声をあげ、キリスト者遺族の会が生れた。権力をバックにした日本遺族会に比して小さな存在であっても、あの「石は叫ぶ（ルカ 19：40）」のごとく地の塩的働きをして今に至っている。

戦後70年、今やわが国は集团的自衛権ー安保法制化、自衛隊の海外派兵自由という正に平和憲法が最大の危機に直面する中で、特に自衛官の死は従来の事故死では扱いきれない「戦死」の問題として喫緊の課題となり、再び靖国神社が政治問題として浮上することは疑いない事態にある。

ここに、私たちは、あの大战の惨禍と愚行のもと国家神道が国内外の思想と信教の自由を侵害した事実を改めて思い起こし、この問題の本質を明らかにして、私たち一人一人にできることを考えたい。

(司会) 坂内 宗男

講演 「靖国神社問題と私ー信教の自由とは」 吉馴明子

(キリスト者遺族の会実行委員、恵泉女学園大学名誉教授、政治思想史)

(休憩)

「キリスト者遺族の会の目指したものー今後の課題を考える」

西川重則

(キリスト者遺族の会実行委員長、日本キリスト改革派東京教会名誉長老)

質疑

日時 2015年9月26日 (土)

午後2時~4時30分

資料代 300円



場所 矯風会館3階 集会室 Tel. 03 - 3361 - 0934

主催 キリスト者遺族の会・日本キリスト教婦人矯風会

問合せ Tel. 080-5412-9386(坂内)